

皆さんお元気ですか？ 11月も末になり、日本も日が短くなり寒くなってきたことでしょう。先日の修学旅行の写真をしていると、ホテル到着時には暗くなっていましたね（今年度も無事修学旅行に行けてよかったですね！）。ただロンドンの昼間の時間の変わりようは、日本の比ではありません。夏は朝4時には明るくなり22時近くになってやっと暗くなる、冬は7時半になってやっと明るくなりかけ16時にはほぼ真っ暗です。だから下校時刻には電灯の下を門まで歩いていきます。寒さも厳しいですよ、ダウンジャケットは10月から着ています…。寒くなったので、家の周りや近くの公園でよく見かけたリスが冬眠してしまったのか、全く見られなくなったのも寂しいです。

DLR(無人モノレール) →

さて前回のロンドン通信で、時差のことについてお話ししました。今は、日本はイギリスの時間 GMT (グリニッジ標準時) より +9 時間です。国際基準として、ロンドンのグリニッジ天文台にある本初子午線を0度とし、地球一周360度を24時間で割ることで時差が計算できます。つまり、 $360 \div 24 = 15$ 。経度15度で1時間の時差が出てくるのです。日本の標準時は東経135度ですから、 $135 \div 15 = 9$ 。ほらね、9時間の時差でしょ！ ただここで疑問が…。世界の基準となっているイギリスの時刻なのに、なぜイギリスは、サマータイムを導入しているのでしょうか？ 世界中で導入しているのは、もう数えるほどしかないのに…。です。長年の習慣なののでしょうか？ ここでも伝統を重んじるお国柄がうかがえます…。

丘の上のグリニッジ天文台 →

そのグリニッジ天文台に、夏休みの休日、行ってきました。ロンドンの東端、テムズ川沿いにあるグリニッジ地区は、私の住んでいる地区からは、まずロンドン中心街に地下鉄で行き、そこから無人モノレール(DLR)に乗るので、合わせて1時間以上かかりました。

DLR沿いは、昔は造船所が多かったのだそうですが、今は再開発されて、高層ビルや高層マンションが林立した、とても近代的な街でした。そこを通り過ぎ、テムズ川の下をくぐり抜けると、グリニッジ地区になります。駅からすぐの広い公園を通り過ぎると、小高い丘の上に、屋根に赤い球の乗ったグリニッジ天文台が見えました。

建物の真ん中を通して地面にひかれている子午線 →

「おお、これがあの有名なグリニッジ天文台か」と、心にじんとくるものがありました。入場料（といっても施設保護のための寄付ですが）を払い、中に入っていくと、ありました！ 本初子午線！ 「ここが世界を東と西に分ける経線の始まりかぁ！」と感激し、お約束の子午線をまたいでの写真撮影をしました（その撮り方をするために、たくさんの人が並んでいましたよ）。写真を撮ったのが正午より少し前だったので、影がど真ん中に来ていないのが残念ですが、なんだか、世界の中心に来た気がして、本当に嬉しかったです。なお、現代の科学で割り出した正式な子午線は、天文台の西、100mほどのところにあるそうです。でも、地球の大きさからしたら、ほんの小さな誤差ですね。

